

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	「私たちは、あなたが日々笑顔で暮らせるように、寄り添いながらあなたを支えます」という理念のもとに、各ユニットにて自分たちの日頃のケア理念をそれぞれ掲げ利用者に関わっている。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	職員会議は地域の公民館を利用させてもらっている。地域の防災訓練や祭りにも参加している。また買い物は近くのスーパーや薬局を利用したり、近隣の美容院を利用したりしている。可能な限り近隣の保育園の誕生会にも参加している。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	家族向けお便りとして「大桑の家通信」を作成、運営推進会議を通して地域へ発信している。熱中症やインフルエンザ、ノロ対策などのコラムを掲載している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	隔月開催の運営推進会議では、利用者のご家族、市または地域包括、町会長、、近隣の医師、介護事業所の方に参加頂いている。意見を頂いたり、情報交換を行い、日々のサービスや防災などにも生かしている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	運営推進会議に参加頂いている。市役所とは密に連絡を取り、助言や指導を頂いている。災害時、どこに避難するのが良いのか、避難食はどのくらいあればいいのかなどアドバイスを頂いた。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束の禁止は理念にも掲げられている。身体拘束のマニュアルを作成し、拘束をしないケアに取り組んでいる。また、委員会を開催し定期的に社内研修で身体拘束について勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待については、外部研修への参加や定期的に社内研修で虐待についての講習を行っている。虐待についてしっかり把握する様に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見人制度を利用されている方もおり、管理者やケアマネは司法書士の方と連携をとり実施しているが、他職員にも学ぶ機会を持ちたいとは思っている。なかなか研修を行うまでは至っていない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約時はより細かな説明に心がけている。わからないことや、不安な事は納得されるまで話を行う様にしている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	利用者の意見はすぐ反映出来る様努力をしている。ご家族の訪問時気軽に話せる雰囲気作りを心がけている。隔月開催の運営推進会議で意見をもらったり、各フロアに意見箱を設置している。苦情受付の案内を玄関に掲示している。		
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	日々の業務の中で随時話し合いが出来る様に心がけている。 また、フロア会議、職員会議を毎月1回行っている。管理者と職員の意見交流の場になっている。 管理者とユニットリーダーは、適宜リーダー会議を行い意見交流を行っている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	就業規則があり遵守されている。また状況に応じて就業規則を改定している。 職員の保有資格や職位職責に応じて給与を決定している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	毎月行っている職員会議の中で内部研修を実践している。資質向上のための外部研修受講も可能な限り推進し、研修受講時の勤務調整、費用負担を行っている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	介護サービス事業所会や同業種が集まる研修へはなるべく参加している。グループホーム、小規模多機能併設事業所として、他施設からの見学や研修を受け入れている。近隣の同業者と防火対策の協力関係を築いている。お互いの運営推進委員会にも参加している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ケアプランを作成し、ニーズを踏まえて不安な事、要望等に耳を傾けながら本人の安心を確保するための関係づくりに努めている。 入所後も本人の思いをくみ取れる様会話や行動に留意している。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	家族が話しやすい雰囲気をはかっている。家族からの疑問や要望、質問等に耳を傾けながら、良い関係づくりに努めている。ご家族様の意思を理解しサービスの提供に繋げている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ケアマネジャーを中心に、必要としている支援を見極めサービス利用も含めた対応に努めている。情報を活かし早期対応を心がけている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員と利用者が共に過ごす時間を大切に、本人が話しやすい空間作りを心がけている。何かあった場合は一緒に考え行動出来る様にしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	家族との絆を大切にしながら、共に利用者を支えていく関係を築いている。訪問時や電話などで状況を伝えている。また毎月、請求書に一筆を添えている。受診にはご家族に同行頂いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	本人の人間関係や生活歴の把握に努めている。 訪問時はゆっくりしてもらえる様な空間作りに配慮している。馴染みの人との関係が途切れないよう面会や外出を支援している。しかし双方の高齢化等により、徐々に難しくなっている現状である。		
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	利用者同士の関係の把握に努めながら、日中はレクリエーションやアクティビティなどを行い、利用者同士が関わり合いを持てるよう支援に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	必要に応じて、契約が終了しても連絡を取り、相談や支援を築けるよう努めている。他事業所に移動してもしくは情報は情報提供・交換等もおこなっている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	言葉だけではなく、本人の行動、表情等にも目を向け思いを引き出せる会話が出来る様に心がけている。散歩や入浴中等の会話も大切なものと認識している。困難な場合には家族や知人からも情報を得る様に努めている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	本人との会話の中で、今までの生活歴の情報収集に努めている。また、家族や知人からも話を聞くなどしている。知り得た情報は記録に残し、職員全員で共有し活用している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の生活の中で普段の状態をよく知ることにより、少しの変化でも気づく事が出来る。パズルや縫物、掃除など本人に出来る事をしてもらい、現状維持に努めている。変化等の気づきは記録等に残し、職員全員で共有出来る様努めている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人、家族、必要な関係者と相談しながら状態に合わせたケアプランの作成に努めている。6ヶ月または状態の変化があった場合にはプランの見直しを行っている。また、毎月フロア会議でモニタリングを実践し、管理者、ケアマネ、看護師、介護職員の意見を出し合っている。		
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	職員全員で共有出来る様、申し送りノートを作成し見やすいように申し送りをしている。フロア会議での意見・情報交換も、介護計画の見直しに生かしている。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	希望があれば一緒に買い物や散歩等に出かけている。体調の変化や状態の変化に応じて家族や主治医と連絡を取り、支援やサービスを増やしたり、変更したりしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	近隣のスーパー、薬局、美容院等を利用し、豊かな暮らしを支援している。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や家族の希望に沿った受診や訪問診療が出来ている。必要に応じて情報提供や報告を行うなどしている。		
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の状態や変化等を、個人記録や業務日誌や医療ノートに記載すると同時に、口頭でも伝え、相談しながら、適切な受診や看護を受けられる様に支援している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入退院時の相互の情報提供のほか、訪問など行い、こまめに連絡を取りながら状態の把握に努め、病院関係者との関係作りをしている。また、退院時には病院のカンファレンスに参加し、ソーシャルワーカー、病棟看護師との話の場を持ち相互の状況を伝えあった。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に看取りについても対応出来ることを説明している。こまめに現在の状況を家族・主治医に伝え、その都度、ご家族の意向を聞き取りし職員に共有している。		
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年職員会議の中で研修を行っている。今年度は6月の会議で緊急時の対処法等の研修を行った。		
35	(13)	○緊急時等の対応 けが、転倒、窒息、意識不明、行方不明等の緊急事態に対応する体制が整備されている	日中、夜間の緊急連絡網があり、119通報のマニュアルがある。また、各主治医との連絡体制が築けている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36	(14)	○バックアップ機関の充実 協力医療機関や介護老人福祉施設等のバックアップ機関との間で、支援体制が確保されている	協力医療機関との連携マニュアルがあり、バックアップ機関である介護施設とも支援体制が確保されている。		
37	(15)	○夜間及び深夜における勤務体制 夜間及び深夜における勤務体制が、緊急時に対応したものとなっている	各ユニットに1名ずつ夜勤者を配置し、1階から3階で連携が取れる様になっている。緊急連絡網があり緊急時用のマニュアルも整備されている。連絡網について、掲示場所や内容などの再確認を職員各位に促した。		
38	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年に2回、避難訓練を行っている。また、災害時の連絡網が整備されている。近隣に災害拠点広場の公園が整備されており、地域の避難訓練にも参加をしている。		
39	(17)	○災害対策 災害時の利用者の安全確保のための体制が整備されている	災害発生時の連絡体制、火災、地震発生時の対策方法が整備されている。備蓄品の確保がされている。スプリンクラーや消火器等の点検を年に2回行っている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
40	(18)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや傾聴など出来る限り行っている。言葉使いや対応が不適切な場合は、その都度職員同士で注意している。また定期的に社内研修で一人ひとりの人格を尊重とプライバシーの確保について講習を行っている。		
41		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	本人の思いや希望で自己解決できるような声かけや対応を行っている。困難な場合は表情や行動から想いをくみ取り、自己解決に近づける様心がけている。		
42		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	出来る限り本人のペースを大切にし、希望に沿えるよう努めている。しかしながら、個別に満足して頂ける支援に繋げるには、まだまだ試行錯誤の現状である。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	希望時には近隣の美容院や訪問カットを利用し散髪を行っている。季節にあった、好みの洋服を選び着てもらえる様支援している。		
44	(19)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	一緒に食事し、準備や片付けなど出来る事は一緒に行っている。好みやアレルギーを把握し、咀嚼や嚥下状態に合った食事の提供に努めながら、食事を楽しんで頂けるよう支援している。		
45		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事量や水分摂取状況は記録に残し把握している。摂取量が不足している場合は、形状を変えての提供、嗜好品の提供、或いは高カロリー食品の提供等、状況に応じた支援をしている。		
46		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、声かけや誘導にて口腔ケアを行っている。夜間、義歯を洗浄し預っている方もいる。		
47	(20)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	一人ひとりの排泄パターンを把握し、声かけや誘導を行う事で失敗を減らし、トイレでの排泄に繋げながら自立に向けた支援に努めている。		
48		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分補給は小まめに行っている。また、食事やおやつ等、乳製品を取り入れてり、軽体操を行ったりしている。 下剤を使用している方には個々に合わせた量を服薬されている。		
49	(21)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりが入浴を楽しめるよう個々の気分や体調を把握し、出来る限り希望に沿った支援を行っている。湯温や空調調整にも配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	個々の生活習慣や体力に合わせて休息を促したり、適度な体操や軽作業を行い、気持ちよく眠れるよう支援している。 夜間のパトロールにて室温や入眠状態を把握し対応している。		
51		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個々の薬情報を保管している。副作用や効果について理解する様努めている。症状や変化があった場合、ホームのナースや主治医に相談、往診等を行っている。		
52		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	個々の要望に合わせて買い物や食事の準備など一緒に行っている。 また、ドライブや散歩、外食等も行っている。		
53	(22)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	月に1回は外食やドライブに出掛ける様に努めているが、冬季期間は難しい。希望があれば散歩や買い物・ドライブなどに出掛けているが、日常的な外出支援の実施には至っていない。 時には家族に協力を得ている時もある。		
54		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	手元にお金を所持している利用者は少ない。 職員と一緒に買い物に出かけた際に、本人に支払いをお願いし、必要な部分をお手伝いする支援を行っている。		
55		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話や手紙の要望があればその都度対応し支援している。		
56	(23)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有空間は、清潔の保持や音・照明・空調等が不快な刺激にならない様に配慮し、季節に応じて飾り物を変えたり心地よく過ごせるよう工夫している。また、利用者間のトラブルも不快や混乱の原因にならない様に配慮している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール以外にもソファや椅子を配置し自由に過ごせるよう支援している。		
58	(24)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	テレビや本人の馴染みのあるものを持ってきてもらい、本人が心地よく過ごせる環境が整う様に、配置などにも配慮している。訪室の際にはノックなどで知らせ、了解を得てから入室するよう努めている。		
59		○身体機能を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	玄関の下駄箱や居室やトイレ等に見やすい位置に手書きで書くなどして分かりやすいように工夫している。個々の動きや動線に配慮し物を設置している。		